



# 2009年度 紙パック回収率

2009年度の紙パック回収率は43.5%と堅調に伸び続けています。

紙パックリサイクルに関する情報の収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2010年も6月～10月に実施され、2009年度のリサイクルの状況が明らかになりました。

飲料用紙パック出荷量の減少にもかかわらず、紙パック全体の回収率(産業損紙・古紙を含む)は43.5% (前年比で約1ポイント増)と堅調に伸びています。

特に家庭からの紙パックの回収量が増加したことで、使用済み紙パックの回収率が増加しました。もちろんその分だけごみになる紙パックは減少。リサイクル活動は各家庭に着実に浸透し、ごみの減量に貢献していることがうかがえる結果となりました。

※2009年度の調査では、紙パックメーカー9社・飲料メーカー341社・1,750市町村区・小学校2,189校・スーパーマーケット966社・市民団体および福祉作業所6カ所・再生紙メーカー32社をアンケート調査対象に、また、3カ所をヒアリング調査対象としました。  
 ※紙パックの製造工程と飲料充填工程で発生した不良原紙、端材などの使用されない紙パックを損紙、または産業損紙と呼んでいます。  
 ※店舗、事業所、学校、家庭などで発生した紙パックを古紙と呼んでいます。

## 2009年度の紙パック回収率

紙パック回収率  
(産業損紙・古紙を含む)

**43.5%**

(2008年度 42.6%)

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量  
=106.2千トン÷244.3千トン

使用済み紙パック回収率  
(使用された紙パック)

**33.0%**

(2008年度 32.0%)

=使用済み紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量  
=68.0千トン÷205.8千トン

自治体の紙パックの取引価格は、3～4年前の水準に戻りました。

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料に位置づけられており、比較的高価で取引されています。

ただ、市町村の紙パックの取引価格は、市町村ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは、紙パック単独の価格で、取引価格以外の付加条件がつかない市町村を対象に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて集計しました。また、集団回収も同様に集計しました。

2009年度の取引価格は、2008年のリーマンショックから始まった経済不況の影響を強く受けました。その結果、上昇を続けていた価格は市町村回収、集団回収のどちらも、2005年度から2006年度の水準に戻りました。

## 紙パック古紙の取引価格

年度		2006	2007	2008	2009	
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	6.6	6.7	8.5	6.2
		持込価格	6.1	7.3	7.8	5.4
	古紙直納問屋	引渡価格	8.4	9.3	9.3	7.0
		持込価格	7.4	8.4	9.4	7.0
集団回収	製紙メーカー	引渡価格	5.4	9.4	11.9	8.8
		持込価格	8.9	9.4	9.7	8.0
		引渡価格	4.2	5.0	5.6	4.3
		持込価格	5.5	6.4	5.8	6.9

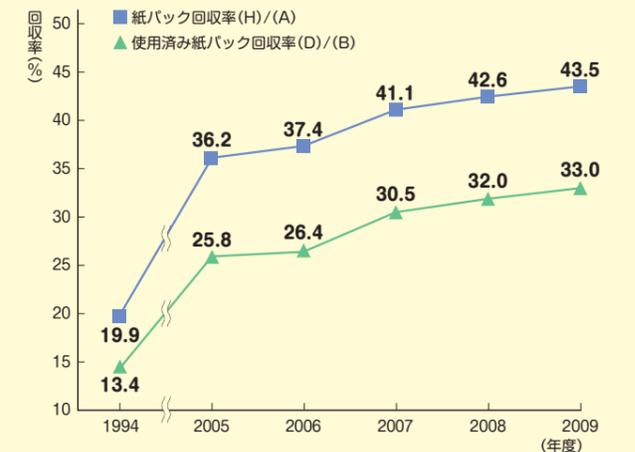
(円/kg)

紙パック回収量は着実に増加しました。

右の図のように調査開始以来、紙パックの回収率は着実に伸びています。回収量や回収率の詳細は下の表です。

2009年度の回収量は全体で106.2千トンと、前年度に比べて0.9千トン(0.8%)の減少。ただし、産業損紙・古紙の減少が大きいなか、家庭などからの使用済み紙パックの回収量は、0.6千トン(0.9%)上昇しました。

## 紙パック回収率の推移



## 主要データの推移 (千トン)

区分	1994年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	前年度比
飲料用紙パック原紙使用量(A)	216.0	252.4	257.8	255.9	251.0	244.3	-2.7%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	33.9	36.9	36.6	37.1	35.9	-3.1%
飲料メーカー産業損紙発生量	-	2.4	3.2	3.6	3.0	2.6	-13.0%
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	215.9	216.8	215.7	210.9	205.8	-2.4%
家庭系(C)	168.7	191.5	191.2	194.1	189.3	184.3	-2.6%
自販機等(事業系)	18.5	12.8	13.5	9.9	9.8	9.7	-0.6%
学乳(事業系)	10.7	11.5	12.0	11.7	11.8	11.8	-0.3%
使用済み紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	55.7	57.1	65.8	67.4	68.0	0.9%
家庭系回収量(E)	25.9	47.5	48.1	55.6	56.7	57.3	1.0%
店頭回収量	13.8	25.4	24.4	31.8	33.4	34.5	3.3%
市町村回収量	4.3	12.6	13.6	14.4	14.4	13.9	-3.4%
集団回収量	7.8	9.6	10.1	9.4	8.9	8.9	-0.2%
事業系回収量(F)	0.6	8.2	9.0	10.2	10.7	10.7	-0.1%
学乳紙パック回収量	0.6	7.4	8.4	8.8	9.3	9.3	0.5%
自販機・飲食店等	-	0.7	0.6	1.3	1.4	1.4	-4.4%
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	35.6	39.2	39.4	39.7	38.2	-3.6%
紙パックメーカー回収量	16.5	33.9	36.9	36.6	37.1	35.9	-3.1%
飲料メーカー回収量	-	1.7	2.3	2.9	2.6	2.3	-11.1%
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	91.3	96.4	105.2	107.1	106.2	-0.8%
紙パック古紙輸入量	-	3.4	10.3	12.3	13.9	10.9	-21.6%
紙パック総受入量	43.0	94.6	106.7	117.5	120.9	117.1	-3.2%
紙パック再資源化量	30.1	70.7	80.2	89.2	93.8	93.2	-0.6%
紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	36.2%	37.4%	41.1%	42.6%	43.5%	0.8ポイント
使用済み紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	25.8%	26.4%	30.5%	32.0%	33.0%	1.1ポイント
家庭系使用済み紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	24.8%	25.2%	28.7%	30.0%	31.1%	1.1ポイント

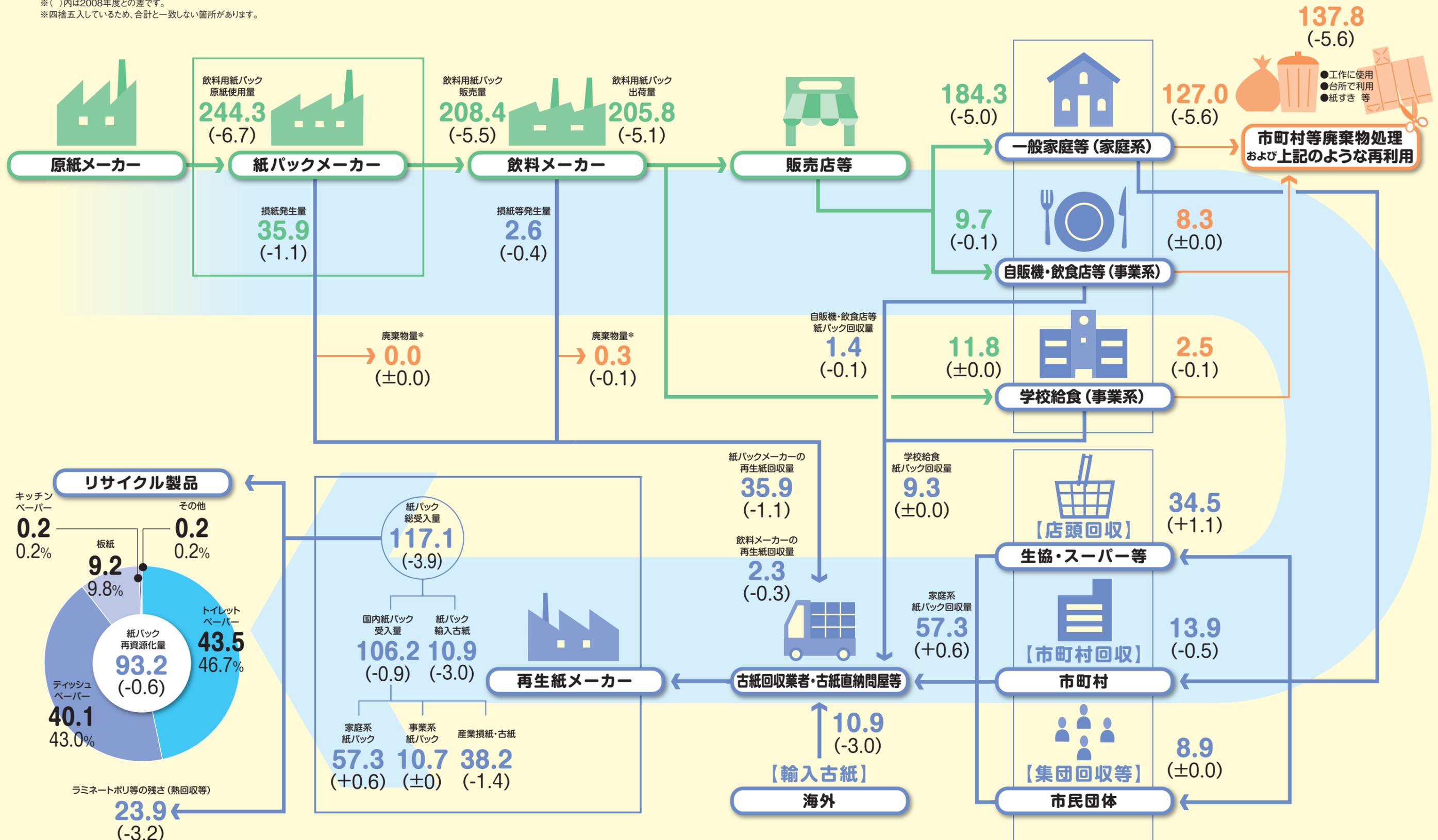
※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留率。歩留率は、2001年度以降についてはアンケート調査により求めています。  
 ※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。  
 ※2004年度より事業系紙パック回収量をアンケート調査に基づいて求めています。  
 ※2005年度に学乳紙パックの重量の見直しを行い、他の項目の値も一部影響を受けています。  
 ※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。



# 2009年度 紙パックマテリアルフロー

2009年度の飲料用紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン  
 ※( )内は2008年度との差です。  
 ※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



\* 廃棄物量には熱回収されるものも含む。